

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区難波5-1-60	氏名	スイスホテル大阪南海株式会社 総支配人 クリスマン・シャウフェル ^ス ェル
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		南海難波ターミナルビルの上部(5階～36階)約65500㎡(ホテルエリア)を南海電気鉄道株式会社より賃貸しスイスホテル南海大阪を運営している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	10,918 t-CO ₂	9,270 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,953 t-CO ₂	10,111 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.8 %	9.1 %	15.1 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	9.7 %	15.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ホテル利用者)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>ホテルの利用者数は温室効果ガスの排出量と密接な関係があるので排出量ベースだけでなく原単位ベースについても検討する事は管理上必要なことと思われます。(原単位は参考)</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>一昨年より空調スケジュールの見直しやLED電球の大量交換等にて大きく目標もクリアーしております。今後は段々と削減率も下がって来た際には現在契約中のエネルギーコンサルタントにも更に助言を求めて削減を維持したいと思います。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ①更新されたBEMSを最大に利用
 ②今まで軽薄されていたLED電球の積極的に交換
 ③社外エネルギーコンサルタント会社と提携
 ④社内で各部署から選抜しグリーンチームを発足し
 2ヶ月に一度、現場サイドのエネルギー削減会議実施。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1113) 空調機器制御	BEMSを駆使し空調制御時間等の見直し(3年間で30t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1113) 照明点灯時間 制御	照明点灯時間の制御 (3年間で10t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1218) LED電球を 使用	LED電球を積極的に使用(3年間で50t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1123) 排熱温度設定 の変更	スクリー冷却機の排熱の効率の向上 (3年間で60t-co2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1111) 社内削減チ ームを発足	各部署から選抜しグリーンチームを発 足。2ヶ月に一度会議実施。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1112) エネルギーコ ンサルタント 会社と提携	外部エネルギーコンサルタント会社と提 携し、エネルギーの高効率化を図る	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1124) 冷凍機整備	冷凍機の大掛りなオーバーホール実施	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	スイスホテル 南海大阪	コード (1112) BEMSの更 新	BEMSの更新してポイント監視強化	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	吹田市泉町1-3-40	氏名	吹田市 吹田市長 後藤 圭二
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>本市 370,408 人（平成29年 5月 31日現在）地域内の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校、図書館、福祉施設等各種施設の設置管理 ・道路、公園、上下水道等の生活環境の整備 ・廃棄物処理等のサービスの提供 <p>など、地方自治法に基づいて、住民の日常生活に直接関係する事務を包括的に処理する。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年	平成 30 年
4 月 1 日	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	76,530 t-CO ₂	80,941 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	81,701 t-CO ₂	86,464 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	3 %	-5.4 %	-5.8 %	0 %
		0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-5 %	-5.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>節電や節エネルギー等の取組を継続的に実施しているものの、平成28年度は猛暑であったことや本市の人口増加に伴う職員数や業務量の増加等によりエネルギー起源のCO2排出量が基準年度と比べ増加した。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境施策や省エネルギーの推進・点検を図る組織として、吹田市環境施策調整推進会議（議長：副市長、委員：各部署局長等）及び吹田市役所エコオフィスパラン推進幹事会（幹事長：環境部長、推進幹事：各部署次長）を設置している。

電力需要平準化対策として、吹田市役所エコオフィスパランに基づき、夏季及び冬季に「節電重点取組期間」を設定し、集中的な取組を行う。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全施設	コード(1111) 職員のエコオフィスパラン活動の推進	吹田市役所エコオフィスパランに基づいた省エネ行動やマイバッグ持参によるレジ袋の削減を推進する。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	全施設	コード(1299) 電気・ガス等使用量の削減	機器等の更新時には、高効率や省エネルギーで、かつ低炭素なエネルギーを使う機器を採用する。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	全施設	コード(1222) 再生可能エネルギーの活用	太陽光・太陽熱・風力などの再生可能エネルギーを活用する。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全施設	コード(1214) エネルギーの効率的利用	コージェネレーションシステム等の導入により、エネルギー利用の効率化を図る。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全施設	コード(1125) エネルギー負荷の抑制	採光や通風性の考慮や断熱性能を向上させることで、建築物のエネルギー負荷の抑制を図る。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	全施設	コード(4210) 断熱サッシの導入	断熱性の向上のため、断熱サッシ等の設備の使用を図る。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	全施設	コード(4220) 緑化の推進	壁面や屋上緑化など公共工事における緑化方法を工夫する。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	全施設	コード(1225) 環境保全に配慮した製品等の採用	温室効果ガス排出の少ない製品や原材料の選択に努める。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	全施設	コード(1123) 排熱の回収利用	施設内で発生する熱エネルギー等の高効率回収と再利用システムの構築を図る。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	全施設	コード(1111) 維持管理体制の整備	省エネルギーに向けた施設の維持管理体制の整備に努める。	27年度～
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	全施設	コード(5131) 夏季及び冬季においては節電取組を強化し、重点的に節電を推進する。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱			
	レ	平準化			
12		GHG排出	上下水道施設	コード(5121) ポンプや設備の運転調整や、ろ過池洗浄作業時間の変更によるピークシフトに努める。	27年度 ～ 30年度
		人工排熱			
	レ	平準化			
13		GHG排出	ごみ焼却施設	コード(5121) 需要ピーク時間帯の発電量増強、灰溶融炉・破砕機運転時間の変更によるピークシフトに努める。	27年度 ～ 30年度
		人工排熱			
	レ	平準化			
14		GHG排出	小中学校 幼稚園 保育園	コード(5999) 環境教育	27年度 ～ 30年度
		人工排熱			
	レ	平準化			
15	レ	GHG排出	体育施設	コード(5231) 体育館やグラウンドにおいて試合時と練習時の照度調整を徹底する。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱			
	レ	平準化			
16	レ	GHG排出	ごみ焼却施設	コード(1225) 一般廃棄物処理基本計画に基づき、市域のごみ減量を推進する。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱			
		平準化			

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全施設	コード(2123) エコドライブの推進	吹田市役所エコオフィスプランに基づき、エコドライブの推進及び市民への普及啓発を図る。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全施設	コード(2121) 低公害車の導入	低公害車や低燃費車の導入に努める。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

吹田市第2次環境基本計画に基づき、環境の保全と創造に関する施策を総合的・計画的に推進する。

「アジェンダ21すいた」では、地域を構成する市民・事業者・行政が策定・推進主体となり、持続可能な社会の構築を目指して、三者協働で取り組む。

市民に対しては、「アジェンダ21すいた」の取り組みの一環で、環境家計簿やみどりのカーテンの普及促進を図る。

実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市片山町2-13-20	氏名	地方独立行政法人市立吹田市民病院 理事長 徳田 育朗
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		総合病院、診療22科目、431床、平成26年4月1日より地方独立行政法人として運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,583 t-CO ₂	5,601 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,122 t-CO ₂	6,140 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	3.3 %	-0.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	3.2 %	-0.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延べ床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

28年度は前年度比較すると残暑の影響が厳しく、10月期においては冷凍機使用が1.57倍となっており、エネルギー総使用量の増加につながり、温室効果ガスの削減率が悪化したものとする。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理統括者のもと、エネルギー使用量の抑制に取り組む。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1111) 職員の省エネ 行動の徹底	不要照明の消灯や冷暖房時の温度設定 等、職員の省エネ行動の徹底	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1112) 毎日のエネルギー 使用設備の 点検記録	ボイラや冷温水機等の毎日の点検記録を 実施	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1113) 設備の稼働台 数の調整、稼 動機器の選択	温度管理による冷暖房用ポンプの運転選 択を実施	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1114) ボイラ等の水質管理、付帯設備、空調機 フィルタ等の定期点検	ボイラ等の水質管理、付帯設備、空調機 フィルタ等の定期点検	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1121) ボイラの空気比 の設定	空気比の最適化	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1123) 蒸気トリップの回 収	蒸気トリップの回収利用(ボイラへの給水利 用等)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1216) 適切な台数制 御	温度管理による冷暖房用ポンプの運転選 択を実施	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(1218) 不要照明の消 灯の徹底等	休憩時間や時間外における不要照明の 消灯の徹底	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(5113) 不要時の電源 OFFと省電力 モードの設定	不要時の電源OFFと省電力モードの設定	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(5111) 適温管理	市民病院管理標準に基づいた温度管理 の徹底	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(5113) 待機電力消費 の抑制	不使用機器の電源OFF	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	市立吹田市 市民病院	コード(5231) デマント監視装 置	機器や設備の運転管理を行なう	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				



2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出 人工排熱		コード		年度 ～ 年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	〒571-0050 大阪府門真市大字門真1006番地	氏名	スカイワークスフィルターソリューションズジャパン(株) 代表取締役 アンドリュー・ジェイ・バント 印
特定事業者の主たる業種		28電子部品・デバイス・電子回路製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は、平成26年8月1日にスカイワークスとパナソニックの合弁企業として発足しました。（社名：スカイワークス・パナソニックフィルターソリューションズジャパン株式会社）その後、平成28年8月1日にスカイワークスフィルターソリューションズジャパン株式会社に社名を変更しました。現在、門真事業場及び大阪事業場の2拠点で携帯電話、スマートフォン等の移動体通信のフィルタリング用途に使用されるSAWフィルターを製造しています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,290 t-CO ₂	24,832 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,506 t-CO ₂	28,595 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.1 %	34.3 %	29.9 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	34 %	30.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度は、対策内容の一部見直しをしながら温室効果ガスの削減を継続して推進中。 生産負荷が下がった影響により平成27年度に対して削減率(原単位)が、若干下がったものの基準年度である平成26年度に対しては削減率30%を維持している。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社内の環境マネジメントシステムの中で省エネ部会を設置し、全員参加の省エネ活動を推進中。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1122) 冷凍・冷蔵設備の効率化	生産装置冷却水用チラー設備を更新した。 (年間30t-CO2を削減) →継続中☆	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
2	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1215) 冷凍・冷蔵設備の効率化	冷却水ポンプの更新、省エネ型ポンプの採用を実施した。 (年間29t-CO2を削減) →継続中☆	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
3	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1218) 照明のLED化	Hf照明エリアのLED化を実施した。 (年間14t-CO2を削減) →継続中☆	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
4	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1122) 設定温度見直し、間引き運転	一般エリアの省エネを実施した。 ・温度設定見直し、徹底 ・パッケージエアコンの間引き運転 (年間22t-CO2を削減) →継続中☆	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
5	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1215) 冷却水ポンプのインバーター化	生産装置用冷却水ポンプのインバーター化 (1F(西、中央)RAS)を検討中。 →予算計画変更の為、実施時期を平成28年度、平成29年度より平成29年度に変更	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
6	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1215) ポンプのインバーター化	冷水2次ポンプのインバーター化を検討中。 (年間7t-CO2を削減) →予算計画変更の為、実施時期を平成28年度、平成29年度より平成29年度に変更	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
7	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1122) 室外機の昇温抑制	パッケージエアコンの運転ロス改善を検討中。 ・室外機にルーフシェード取り付け (年間46t-CO2を削減)→予算計画変更の為、実施時期を平成29年度、平成30年度に変更	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
8	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1122) 空調機の高効率化	空調設備の更新を検討中。 (年間150t-CO2を削減) →一部完了。(年間20t-CO2を削減)★	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
9	レ	GHG排出	門真事業場	コード (1218) 照明LED化	M D-BANDエリアの照明LED化計画を検討中。 →実施完了。(年間6t-CO2を削減)★	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
10	レ	GHG排出	門真事業場 大阪事業場	コード (1114) 生産装置の省エネ	露光装置水銀ランプの出力低減、長寿命化を検討中。→実施完了。 (年間9t-CO2を削減)★	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度
11	レ	GHG排出	門真事業場 大阪事業場	コード (1215) ポンプの高効率化	ドライエッチ装置ポンプ、チラーの高効率タイプ採用を検討中。 →予算計画変更の為、実施時期を平成28年度から平成31年度に変更する。	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				0 年度

12	レ	GHG排出	門真事業場 大阪事業場	コード (1215) ポンプの高効率化	IDTスパッタ装置ポンプの高効率タイプ採用を検討中。 →予算計画変更の為、実施時期を平成28年度から平成30年度に変更する。	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13		GHG排出	門真事業場	コード (1215) ポンプの高効率化	純水ポンプの更新による省エネ実施完了。(年間26t-CO2を削減)★	0 年度 ～ 0 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区淡路町3-6-3	氏名	ステラケミファ株式会社 代表取締役社長 橋本 亜希
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にフッ化水素、フッ化水素酸ならびにその塩類を大阪府内の2箇所の事業所で製造している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	23,565 t-CO ₂	23,082 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	24,615 t-CO ₂	24,234 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	-0.3 %	-0.4 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.6 %	-0.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(寄与度 (%))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>省エネ法による事業分類ごとのエネルギー使用に係る原単位におけるエネルギー使用に係る原単位の対前年度比の寄与度(%)と同様の方法にて大阪府内の事業所全体の温室効果ガス排出原単位を管理する。</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度、泉工場にて保安運転機器・照明の停止、事務棟照明LED化、鋳塩工場照明LED化を実施、三室工場にて冷熱工程見直しによる冷凍工程最適化、事務厚生棟LED化、モータのインバータ駆動化を行い、エネルギー効率利用と温室効果ガス削減を実施</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的な地球環境への取組みとして、環境マネジメントシステムISO14001を認証取得しております。生産活動を行っております事業所については省エネ法に準じて積極的な省エネルギーへの取組みを実施しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全体	コード(1216) 空気調和設備の運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムを運用する	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	三宝工場	コード(1126) 設備のインバータ化	モータのインバータ駆動推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	三宝工場	コード(5112) LED照明に変更	事務厚生棟LED化 製造建屋(PAS-II)水銀灯LED化	29年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	三宝工場	コード(5231) 生産量にあわせた設備運転最適化	生産量にあわせた精製工程の間欠運転	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	三宝工場	コード(1222) 蒸気減圧エネルギー回収	蒸気減圧エネルギー回収(蒸気発電)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	三宝工場	コード(5221) 冷熱工程温度見直しによる工程最適化	冷熱工程温度見直しによる冷凍工程最適化	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	泉工場	コード(5231) 設備運転削減	保安運転機器・照明の停止による消費電力削減	28年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	泉工場	コード(5112) LED照明に変更	事務棟照明LED化 錯塩工場照明LED化	28年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	三宝工場	コード(1123) ボイラールー水の熱回収	ボイラールー水の熱回収 (平成27年度実施済)	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	泉工場	コード(5121) 生産時期シフトによる平準化	生産時期シフトによる夏季エネルギー使用量削減 (平成27年度実施済)	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	泉工場	コード(1124) 配管およびポンプ容量見直し	冷却水ライン見直しによるポンプサイズダウン (平成27年度実施済)	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

12	レ	GHG排出	三宝工場	コード(1126) クリーンルーム外調機ファンインバータ制御	事務棟クリーンルーム外調機ファンインバータ制御による電力消費削減	29年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	三宝工場	コード(1126) 計装用コンプレッサー運用変更	計装用エアーコンプレッサー配管および運用変更による電力消費削減	29年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	泉工場	コード(1199) 放流ポンプ停止	放流ポンプを停止して自圧放流に変更	29年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	泉工場	コード(5112) 照明LED化	GB棟、錯塩工場、発生工場、充填工場、Lip- II 工場LED化	29年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区新川二丁目27番1号	氏名	住友化学株式会社 代表取締役社長 十倉 雅和
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>第一種エネルギー管理指定工場である大阪工場（春日出）は、医薬原体・中間体、農薬、半導体・表示材料、情報記録材、有機ゴム薬品、染料など数多くのファインケミカル製品を生産している。大阪府内には、大阪本社、歌島地区、製品配送センター、原料中継所の事業所がある。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年	4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	48,254 t-CO ₂	50,906 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	49,363 t-CO ₂	52,316 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
		3.7 %	-8.5 %	-17.9 %	0 %
削減率 (平準化補正ベース)		- %	-7.7 %	-18.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪工場における補正生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度は、補正生産量は基準年度に対して減少した。また、高効率ガスタービンへの更新工事のため、買電量を増加し生産対応したことにより、温室効果ガスの削減率は悪化となった。今後、省エネルギー策として、高効率型蛍光灯(LED)の採用、高効率化トランスの採用などを継続するとともに、設備の適性運転化、冷凍機等省エネ機器採用などを推進し、種々の省エネ活動も含め目標達成に向けて取り組んでいく予定である。高効率ガスタービン更新後の効果は、平成29年度から発現される見込みである。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・当社は、レスポンシブル・ケア活動の一環として温暖化防止、省エネルギーについて全社的に取り組んでおり、大阪工場では事業所内の関係会社も含めた省エネルギー活動を展開している。・省エネルギー推進組織である「省エネルギー委員会」は、環境安全部長を委員長とし、各部門の代表者による省エネルギー委員および各職場で実際の省エネ活動を推進する省エネルギー推進員から構成される。</p>
<p>・電気需要の平準化対策として、特定設備の平準化時間帯以外での稼働や生産調整、冷暖房温度管理などを実施している。またISO14001環境マネジメントシステムを活用しエネルギー削減計画を実行している。</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 冷水塔の適正 運転	冷水塔の能力の適正化を図るとともに、 ファン・ポンプの省エネも合わせて行 う。 (CO2削減効果；79トン) ⇒H29年度実施予定	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 高効率型蛍光 灯の採用	高効率型蛍光灯の採用による省エネ エネルギー (CO2削減効果；16トン/年) ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	大阪工場	コード (1126) 高効率型トラ ンスの採用	高効率型トランスの採用による電力ロス の削減 (CO2削減効果；4トン/年) ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	大阪工場	コード (1113) T P M活動に よるロス削減	製造・間接部門におけるT P M活動を通 じて、不要運転の廃止や運転時間短縮を 図る (CO2削減；4トン/年) ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 間接部門の節 電対応	事務・研究部門において、不要照明の廃 止、温度管理の徹底等による省エネ活動 を行う ⇒(CO2削減；4トン/年) ⇒継続中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	大阪工場	コード (1124) 冷凍機更新に よる排熱有効 利用	吸収式冷凍機の更新における排熱有効活 用による省エネルギー (CO2削減；428トン) ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	大阪工場	コード (1126) 省エネポン プの採用	省エネ型ポンプの採用による省エネ エネルギー (CO2削減；79トン) ⇒H29年度実施予定	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	大阪工場	コード (1214) 高効率ガス タービンの採 用	高効率ガスタービンへの更新による省エ ネルギー (CO2削減；1296トン) ⇒H29年度実施予定(実績確認)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (2114) 自動車の適正 管理	自動車を保有する事業所は、法的および 自主的な点検を行い、適正な管理を行う ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉大津市河原町9番1号	氏名	住友ゴム工業株式会社泉大津工場 工場長 船原 喜代志
特定事業者の主たる業種		19ゴム製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に自動車タイヤの製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	19,516 t-CO ₂	18,164 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,860 t-CO ₂	19,440 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (30 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-4.1 %	-8.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.5 %	-9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (製品重量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
平成28年度は対基準年度比で14.4%減少した。	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

平成28年度のCO ₂ 原単位は製品重量が対基準年度14.4%減少し、固定部分のエネルギーの影響を受け、原単位が8.7%悪化した。
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

温暖化対策への取り組みとして、毎月環境委員会及び省エネ分科会を開催し、環境に関する啓蒙活動を行うと共に定期的な温暖化対策の進捗状況を確認している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1218) LED照明の 拡大	照明のLED化の拡大 (年間200灯を目標に拡大する)	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1223) 排熱回収の変 更	低圧ドレン回収の効率化	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (5221) 高効率設備の 導入	高効率トランスの導入	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1112) エネルギーの 見える化	エネルギー管理の見える化の推進で運用 強化	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1113) 蒸気送気圧の 低下	蒸気の工場送気圧力の低下	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1125) 圧縮エアー漏 れ削減	漏れの少ない機器の採用拡大	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1113) エアー圧縮機 の台数制御	エアー圧縮機の台数制御で運転効率化	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	泉大津工場	コード (1199) N2発生効率 の改善	N2ガス発生装置の活性炭の変更	28 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区晴海1-8-11 晴海トリトスエア オフィスタワーY棟	氏名	住友商事株式会社 代表取締役 社長執行役員 CEO 中村 晴
特定事業者の主たる業種		50各種商品卸売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		総合商社として、世界各国にわたるネットワークを活用し、日本、北米、アジアをはじめとする世界各地で、金属、機械、エレクトロニクス、資源・エネルギー、化学品、繊維、食糧・食品、消費財など多岐にわたる商品・製品の仕入、販売、流通、及びマーケティング等の商取引全般に従事。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	5,506 t-CO ₂	5,216 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,467 t-CO ₂	6,074 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.5 %	3.5 %	5.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.1 %	6.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>本計画の第2年度に原単位ベースで5.6%削減した。主な要因は、総エネルギー量の約6割を占める主たる事業所の住友ビルディング第2・3号館において、24時間点灯の駐車場全体の照明をLED化するなど、一部機器の高効率化を図ったため。今後も一層の環境配慮行動の実施に努めていきます。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

1999年に認証を取得し、継続的改善を図っているIS014001のシステムを活用し、省エネルギー及び環境負荷の低減に努めていく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての 事業所	コード (1112) 空気調和設備 の効率的な運用	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運 転制御・管理システムを継続運用中。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	住友ビルデイング 第2・3号館	コード (1112) 空気調和設備 のターゲット 温度の適正管理	サマーエコ導入により、夏場の冷房適正 温度を27℃に設定し継続推進中。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	住友ビルデイング 第2・3号館	コード (5121) 夜間動力の積 極的な活用	水槽ポンプ群の夜間運転へのシフト、 氷蓄熱設備の夜間電力の最大活用。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	住友ビルデイング 第2・3号館	コード (5221) 高効率機器へ の更新	空気調和機及びポンプ、ファン等設備の 高効率化を推進する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	住友ビルデイング 第2・3号館	コード (1218) 高効率機器へ の更新	照明器具の高効率 (HF、LED) 化を推進 する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西支社	コード (2123) エコドライブ の推進	・エコドライブの推進	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市 中央区城見1-4-35	氏名	住友生命保険相互会社 代表執行役 佐藤 義雄
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業，保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		生命保険業 ・生命保険の引受け ・資産の運用 付随業務及び法定他行 ・他の保険会社その他金融業を行う者の業務の代理または事務の代行 ・投資信託の販売 ・確定拠出年金制度における運営管理業務		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	29,890 t-CO ₂	29,050 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	33,742 t-CO ₂	32,828 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	3 %	2.9 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.1 %	2.8 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>H27年度・・・H26年度と同様に冷夏・暖冬だったこともありエネルギー使用量は低減。エネルギー効率の高い空調機器の更新・物件数の減少の影響もあった。</p> <p>H28年度・・・H27年度と比較し暑夏・寒冬であり、空調負荷が増加したことによりエネルギー使用量は微増となった。エネルギー効率の高い空調機器の更新・物件数の減少の影響を考慮すると、H29年度実績では目標達成できる見込み。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドコミュニケーション部担当を委嘱されている執行役員をエネルギー管理統括者として選任し、全社の統括を行っている。 ・エネルギー使用量の大半を占めるテナントビルについてはプロパティマネジメント会社及び現地のビル管理会社を中心とし、ビル毎に省エネの取り組み状況を確認する体制となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・自社使用ビルについては、所管組織を中心とし省エネに取り組む体制となっている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1111) 省エネ啓蒙	省エネルギー推進委員会の整備、省エネルギー勉強会、研修会の充実、ポスター・パンフレット配布によるテナントへの啓蒙	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1111) エネルギートレンドの分析と改善	・プロパティマネジメント会社によるエネルギー使用に関する分析と改善指導 ・ビル管理会社(現場)との情報共有化(会議で振り返り)	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1111) 自社によるチェック	・プロパティマネジメント会社にて実施する定期的な実態調査報告を元に実施状況を確認。	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ビル	コード(1112) エネルギー使用実績の開示	・外部のシステムを利用したテナントへのエネルギー使用量開示 ・実績の把握	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1113) ユーザーとの協働、協力	・不要照明の消灯 ・エアコンの設定温度緩和化 ・ブラインドの活用 ・冷暖房期の窓開放禁止 ・節水の励行	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1113) 共用部運用面の取り組み(空調設備)	・熱源機器、空調機、全熱交換機、エアコン、給排気ファン等の運転時間削減や設定温度の適正化	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	テナントビル全般	コード(1113) 共用部運用面の取り組み(空調設備)	・湯沸器、温水器、暖房便座の運転時間削減 ・共用部照明点灯時間削減、間引き	27年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	Y Oビル	コード(1216) 設備更新	空調設備の更新 (H28年度工事竣工)	28年度
	レ	人工排熱				0年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	O Cビル	コード(1216) 設備更新	空調設備の更新 (H27年度工事竣工)	27年度
	レ	人工排熱				0年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	M Tビル	コード(1216) 設備更新	空調設備の更新 (H28年度工事竣工)	28年度
	レ	人工排熱				0年度
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	HRビル	コード(1216) 設備更新	空調設備の更新 (H28年度工事竣工)	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	FUビル	コード(1216) 設備更新	空調設備の更新 (H27年度工事竣工)	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	営業用店舗 全般	コード(1113) 運用面の取り 組み(全般)	・証明の間引き ・不使用エリアの消灯 ・空調調整 ・不使用OA機器のコンセント抜き等	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出 人工排熱		コード		年度 ～ 年度

(3)その他の抑制対策

<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林、里山の保全活動やサンゴ礁保全プロジェクトの実施（大阪府内に限らない）。 ・ 資料印刷時における廃紙の使用推進、会議における電子データの活用（紙印刷を控える）、両面印刷の活用推進、お客さまへお渡しする冊子のCD-ROM化やメール通知サービスの拡充による紙使用量の削減。

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区北浜4-5-33 住友ビル	氏名	住友電気工業株式会社 社長 井上 治
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		電線・ケーブル等の製造販売を行っており、大阪府内には本社と大阪製作所がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	55,334 t-CO ₂	50,444 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	59,050 t-CO ₂	53,974 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.3 %	11.1 %	12.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	11.1 %	12.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪製作所の生産額)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<ul style="list-style-type: none"> ・省エネタイプのECOモータへの更新、LED照明への更新 日及び未使用設備の電源OFFを徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・休
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大阪製作所ではISO14001の枠組みで推進していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪製作所	コード (1126) インバーター 化	冷却水循環装置のポンプへのインバー ター取付	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪製作所	コード (5112) LED照明への 更新	ハイブリッド工場、電力ケーブル工場に おけるLED照明への更新	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪製作所	コード (1113) 運転の自動化	エアドライヤーの運転を自動制御	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪製作所	コード (1121) 高効率バー ナーへの更新	導電製品工場における傾転反射炉バー ナーを高効率のバーナーへ更新	29 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪製作所	コード (1126) 省エネタイプ のポンプ導入	冷却水ポンプをタービンポンプから渦巻 きポンプへ更新	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡熊取町朝代西 1丁目950番地	氏名	住友電工ファインポリマー株式会社 代表取締役社長 西村 佳哉
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		高分子材料を使用した材料開発及び製品の開発・製造を行っており、大阪府内には本社(事業所)のみが有る。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	17,101 t-CO ₂	19,893 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,511 t-CO ₂	21,429 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	5 %	12.5 %	-23.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	11.2 %	-23.2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (売上高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>製造設備の生産効率向上、及び不良低減活動やLED照明器具の導入を進めたが、それ以上に主要顧客の生産調整により一部主力製品が間欠操業となり、エネルギー効率が低下した影響が大きく、削減が滞った。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- (1) 平成10年2月にJQA(日本品質保証機構)より、IS014001を取得して以来、1回/年の定期審査及び1回/3年の更新審査を受けながら目標の向上、改善の推進を行っている。
 (2) IS014001の条項に従い、エネルギー管理委員会を組織し、6回/年の頻度で開催している。本会議ではエネルギー使用量の把握、省エネ対策の実施状況確認(推進計画及び実施状況トレース)、省エネ情報交換等を実施している。

- (3) 各課にはエネルギー管理委員を配置し、省エネ実施状況のトレース、広報活動を実施している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1199) 生産効率向上 対策による省 エネ	生産現場の製造見直しや合理化を図り、 エネルギー効率を高める	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1216) 作業環境の適 正温度管理化	クリーンルーム(チューブローラ)空調 負荷の適正化を図り、現状室温より設定 を3℃下げる。(600t-co2/年削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1125) 炉体放熱防止 対策	加熱炉の炉断熱強化対策(チューブロー ラ関係B2炉)(53.6t-co2/年削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1218) 老朽照明設備 の更新	南工場1、3、4号棟天井照明を省エネ 照明器具に更新する(8.9t-co2年/削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1126) 老朽更新によ るエネルギー 効率UP	設備の老朽更新計画を推進して、省エネ ルギー機器の採用を推し進めてエネ ルギー効率の良い設備化を図る。 押出・膨張設備関係	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(1214) 発電専用設備 の運用	夏季・冬季の冷暖房運転を自家発電設備 (1000kW)にて行い、買電エネルギー消 費の平準化を継続する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(2113) スケジュール 管理による送 迎車の運用	スケジュール管理に沿った運行管理を行 い突発的な送迎車の運用を原則禁止す る。 継続中	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
2	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(2121) 低燃費車へ の更新	更なる低燃費車への買い替えを行い、燃 料消費を軽減する。 継続中	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度
3	レ	GHG排出	住友電工 ファインポ リマー株式 会社	コード(2114) 法令点検や日 常点検整備に よる維持管理	法令点検や日常点検整備を行い常に最適 な運航状態を維持する。 継続中	0 年度
	レ	人工排熱				0 年度

4	レ	GHG排出	住友電工 ファイナ リマー株 式会社	コード(2122) 時間外外出・ 退社時の公共 交通機関利用 促進	スケジュール管理時間外は、全て公共交 通機関の利用を原則とする。 継続中	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区中之島5-3-20	氏名	一般財団法人 住友病院 理事長 森川 敏雄
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		総合病院 診療科目 内科・血液内科・内分泌代謝内科・腎臓内科・人工透析内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科・精神科・外科・乳腺外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・整形外科・婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・皮膚科・泌尿器科・腎臓移植外科・形成外科・放射線診断科・放射線治療科 麻酔科・リハビリテーション科・歯科・救急科・病理診断科・脳神経外科 リウマチ科・美容外科		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,883 t-CO ₂	8,780 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,614 t-CO ₂	9,497 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	3 %	2.7 %	1.2 %	0 %
		0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.6 %	1.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

前年度から引き続き、無駄な冷暖房の停止、及びLED照明器具への順次取替等を行いました。ただし、気温面において、昨年より、夏季の気温が高く、また、冬季の気温が低く推移しことで、冷暖房に係る消費量が増加してしまい、温室効果ガスの単位での削減率が、昨年の半分程度になったと思われる。今後も一層の環境配慮行動の実施・省エネルギー型機器への代替を進め、目標とする基準年度比3%削減の達成努めるとともに、総排出量についても削減に努めていきます。
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

理事事務長を委員長とする省エネルギー推進委員会の活動を促進し、地球温暖化防止のために努力します。なお、各部署には部門責任者並びに部門担当者を設置し、省エネ運動を指導します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG 排出	病院	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備 (LED) への 更新 (年間32.7 t-CO ₂ を削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG 排出	病院	コード (1216) 空調機器運転 管理	空調機器運転時間調整 (間欠運転) (年間36.6 t-CO ₂ を削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
